

・

自動車のバックミラーの上に、かなり大きなアブがとまっていました。「アカウシアブ」です。体長は2～3センチほどにもなる大型のアブで、黄褐色から赤褐色のがっしりした体つきは、遠目にはスズメバチを思わせませす。しかし、ハチの仲間が4枚の翅をもつのに対し、アブを含むハエ目の昆虫の翅は2枚です。後翅は「平均棍」という小さな器官に変化しており、飛行中の姿勢を保つセンサーのような役割をしています。

アカウシアブは、その名の通りウシやウマなどの大型哺乳類に飛来し、雌は鋭い口器で皮膚を傷つけて吸血します。獲物を探す際には、動く大きな物体や熱、そして呼吸によって放出される二酸化炭素などを手掛かりにします。そのため自動車にも強く引き寄せられることがあり、排気ガスに含まれる二酸化炭素を動物の呼気と取り違えて接近するとも考えられています。

この個体も、バックミラーを大型動物の体とでも思ったのでしょうか。何度も口器を押し当て、刺そうとするような動作を繰り返していました。車を走らせても簡単には離れず、風を受けながらしばらくしがみついていた。大きな体で「ブンブン」と直線的に飛び回る姿にはなかなかの迫力があります。スズメバチそっくりの姿と荒々しい飛び方、そして自動車にまで果敢に挑む行動が印象に残った、夏らしい一場面でした。

(2026年8月下旬／埼玉県新座市)

